



子どもたちの健康を見守る

～平成28年度 定期健康診断報告
（学校検尿・学校心臓検診）～

総務企画課検診係

1. 定期健康診断の概要

1973年（昭和48年）に学校保健法施行規則が改正され、広島市からの委託を広島市医師会が受け、当検査センターでは学校検尿を1975年から、学校心臓検診を1980年から行っています。

（1）実施目的

学校検尿と学校心臓検診は、児童・生徒の腎疾患や糖尿病および心疾患などの早期発見、早期治療により、将来起こる可能性のある重篤な疾患を予防することと、疾患の状態を把握して学校生活管理指導表に基づく正しい指導と管理が保護者と学校で行われることを目的としています。

（2）当検査センター検診系の役割

学校検尿と学校心臓検診は、学校単位で検査を行います。

学校検尿の尿検査は当検査センター検査室で行われますが、検診係では各学校への採尿容器の配布や検査日程の調整、結果報告書の発行および送付などを行っています。

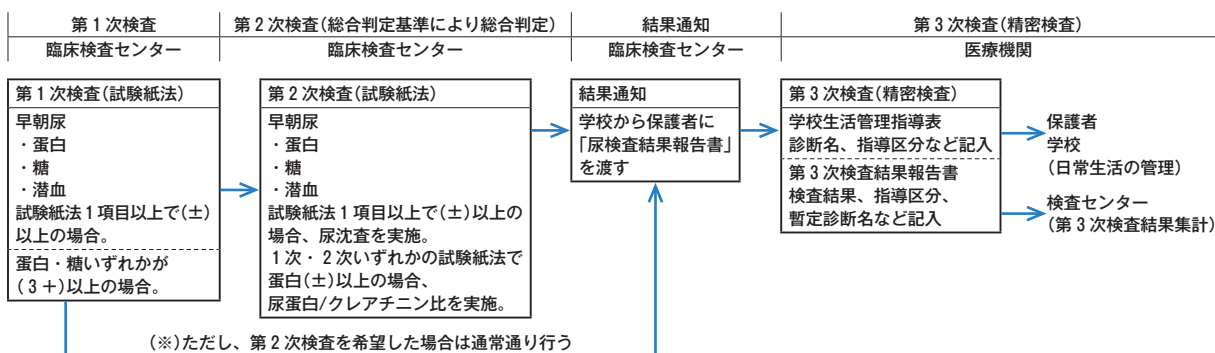
学校心臓検診は、検診係が中心となり各学校と日程調整を行い、臨床検査技師と看護師が3人一組で学校を訪問し、心電図と心音図（小・中学生のみ）の検査を行います。検査した心電図、心音図と心臓検診調査票をもとに医師による1次判定が行われます。その後学童心臓検診判定小委員会の小児循環器専門医に週1回のペースで2次判定をいただいています。判定結果は学童検診システムに入力し、結果報告書を発行し各学校へ送付します。

毎年行われる莫大な数の検診結果は学童検診システムで管理し、結果報告書の発行やデータの抽出などを迅速に行える仕組みになっています。

それでは次に、学校検尿および学校心臓検診の流れと平成28年度の実績を紹介させていただきます。

2. 定期健康診断の流れ

学校検尿

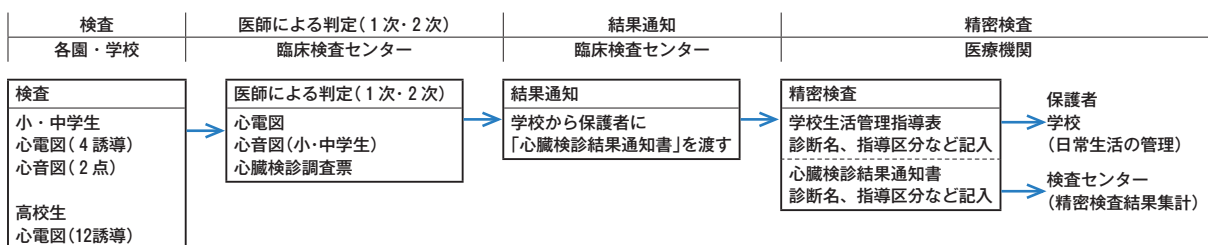


検診は、依頼のあった幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の児童・生徒を対象に、第1次検査として早朝尿を用い試験紙法により蛋白・糖・潜血の3項目を実施します。いずれか1項目以上の検査で(±)以上の場合は、第2次検査が行われます。蛋白・糖いずれかが(3+)以上の場合は、学校に緊急受診の連絡をおこない第3次検査(精密検査)となります。しかし、第3次検査の前に、第2次検査を希望した場合は通常通り第2次検査が行われます。

第2次検査も早朝尿を用い試験紙法により蛋白・糖・潜血の3項目を実施します。ただし、追加検査として1項目以上で(±)以上の場合は、尿沈査をおこない、1次・2次検査いずれかの試験紙法で蛋白(±)以上の場合は、尿蛋白/クレアチニン比(今年度から導入)を実施します。

第2次検査の結果を基準にしたがって総合判定をしたのち、尿検査結果報告書を発行し各学校へ送付します。尿検査結果報告書は学校から保護者に渡されます。

学校心臓検診



検診は、依頼のあった小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童・生徒を対象に、心電図と心音図(小・中学生のみ)検査を行います。小・中学生の心電図は4誘導、高校生は12誘導心電図検査を行います。

検査した心電図・心音図と心臓検診調査票をもとに医師による判定を行います。医師の判定後、結果通知書を発行し各学校へ送付します。結果通知書は、学校から保護者に渡されます。

3. 平成28年度の検診実績

学校検尿

平成28年9月30日現在

	第1次検査 実施人数	第1次検査 陽性者数(%)	第2次検査 実施人数	総合判定 陽性者数(%)
幼稚園	361	8(2.2)	8	2(0.6)
小学校	33,339	778(2.3)	754	145(0.4)
中学校	13,340	1,295(9.7)	1,187	172(1.3)
特別支援学校	450	40(8.9)	31	10(2.2)
合計	47,490	2,121(4.5)	1,980	329(0.7)

()内は第1次検査実施人数に対する陽性率

学校心臓検診

平成28年9月30日現在

	検査 実施人数	精密検査 対象人数(%)
小学校	7,046	210(3.0)
中学校	5,789	323(5.6)
特別支援学校	124	6(4.8)
高等学校	1,618	60(3.7)
合計	14,577	599(4.1)

4. 定期健康診断の意義

検診後、精密検査対象者が医療機関を受診し精密検査（学校検尿における第3次検査）を受けます。受診先の医療機関の先生方には、精密検査結果を学校生活管理指導表と精密検査（第3次検査）結果報告書に記入していただいています。

学校生活管理指導表は、保護者と学校で児童・生徒の日常生活の管理に、医療現場で患者の継続管理に役立てられます。また、先生方に記入いただいた精密検査（第3次検査）結果報告書は検査センターで集計を行っています。

この集計をもとに、年に1回行う各検診判定小委員会で、症例検討や年度ごとの疾患の傾向の把握を行い、学校医委員会等においても活用しています。

しかし、精密検査対象者が医療機関を受診しなければ、検診の目的である早期発見・早期治療・管理が達成できません。検診係では精密検査（第3次検査）受診率向上のため、学校検尿の精密検査（第3次検査）結果報告書をもとに学童検診システムから出力した未受診者リストを各学校へ送付し、受診勧奨を行なっています。この働きかけが、1人でも多くの子の医療機関受診に繋がり、検診が有意義なものになることを願います。

5. おわりに

学校検尿と学校心臓検診の行われる4月から6月までは、他の検診も重なるため、検診係にとって年間を通じて一番忙しい時期になります。業務に追われ大変ではありますが、学校訪問時には子どもたちの元気な姿や笑顔を原動力にして、検診が正確・安全に行われるよう細かな説明を心掛けています。

学校や医療現場ではなく、検査センター検診係という少し離れた場所からですが、これからも陰ながら子どもたちの健康を見守っていかれたらと思います。

担当：船岡 由紀子(検診係)
文責：柘本 健(検査科副技師長)
石田 啓(臨床部長)